

史料

五郎兵衛新田古文書目録 第二集

E二一六 天保五年（一八三四）

「表紙」

「 天保五年

御用向留書

午正月 橋方一件有」

（E二一六①）初会合の覚

初会定

二月九日 彼岸

三月廿五日 八十八や

四月八日 番水始メ

五月十六日 中

六月十四日 土用

七月廿九日 二百十日

二月廿八日 堰見分

三月八日 浚始メ

堰人足耆人

当時 百六拾文

暮 百七拾八文

但四月十日方六月十日迄式分増

加宿人足耆人二付

永式拾式文七分式厘

田畑売買目安

高耆石二付

丁六百九拾八文

用水耆反二付

人足五人

但耆人二付

丁百六拾文

九六百文二付

米耆升八合式勺

国役錢三十五文

所左衛門

上十五日 文之丞

縫右衛門

傳左衛門

八左衛門

下十五日 平作

五兵衛

奎右衛門

右之通惣役人談事之上

取極置申候以上

午正月十一日

（E二一六②）初御廻状の覚

其村々前々御法度筋は

勿論諸御触事等忘却

不致火之元可相守且又

博奕之義ハ前以重々

厳敷被仰出有之候処心

得違之もの有之哉二

相聞以之外之事右体

心得違之者於有之は

早速召捕当人は勿論

五人組村役人急度遂

吟味候条得其意小前

のもの共江も不洩様

申聞取締可致候

一荒地有之村々は起返

并畑田成切添切開

新開有之村々耆畝

耆分不隱置有体

申出可吟味事

一当年宗門五人組人別帳

并去巳村入用夫錢帳共

来ル二月朔日迄可差出

於延引は差支候条

右日限迄無間違取調
可差出候

一諸運上年季明村々
は格別踏込増米致
跡受可願出候

一定免年季明村々は
格別踏込増米いたし
跡定免来二月十日

迄二可願出候

一村々溜池其外用悪水
路浚之義ハ村役人見廻り
百姓手透之節申合無

油断出性浚可致候

若等閑ニ相心得村方於
有之候は廻村節急度
相糺候条可得其意候

一持山立木悉伐荒候而は

用水之助無之自然
と旱損不作いたし困窮

基ニも可相成出精
小苗等植付け成木いたし
候様心掛ケ可申候

右之趣得其意小前

至迄不洩様写取り
置申聞へく候村下

令請印早々順達
泊り村方可相返者也

中之条
午正月九日 御役所

佐久郡三ツ井村始メ五ヶ村

新田留メ正月十三日到来
桜井新田送り申候

其村々去已偉作ニ付急

夫喰拝借等願候ニ付同年
御年貢米之内を以貸渡

候条得其意三役人印形
持参可罷出候此廻状

村下令受印刻付を以
早々順達留り村可相返也

中之条
午正月十七日 御役所

三ツ井始メ桜井新田留め

(E二一六―⑤) 凶作につき融通米について

乍恐以書付奉願上候

佐久郡五郎兵衛新田村役人奉願上候
去已違作ニ付急夫喰御手当等

奉願上候得共開作夫喰等
差支可申奉存候間村方御

貯穀御拝借仕度此段願上候
尤御返納之義ハ来未方辰迄

十ヶ年賦御上納被仰付可被下候
様御憐民力之御慈悲奉願上候

依之村役人連印を以願上候 以上

佐久郡五郎兵衛新田

天保五年正月 村役人

(E二一六―④) 義住寺より入寺について

(略)

(E二一六―⑤) 凶作につき年貢分納について

覚

一 金貳拾兩 五郎兵衛新田

右は其村々去已御年貢
残金之内令割賦候条得

其意来二月十四日限り

無相違上納可致候廻状
村下令請印刻付を以

早々順達留り村方可相返者也

中ノ条

午正月廿五日 御役所

正月廿六日酉上刻奉拝見先村継送候
当村始三井村留

(E二一六⑥)縁女送り

(略)

(E二一六⑦)村々廻村の事

覚

一人足三人

右ハ御取締為御用

我等義明廿八日朝腰越

出立其節罷越候条

書面人足差出支

配所外御定賃錢

受取之継立可申候 以上

蓑笠之助

手代

午正月廿七日 池田庄八

腰越 芦田 望月

正月廿八日

三井 小平 春日村

同新町 前山々新田 沓沢新田

入布施 五郎兵衛新田 牧布施

正月廿九日

高柳 取出町 本新町

二月一日

臼田 勝間 高野町

下畑 上畑 八郡 馬流

右御村

追つて支配御囲穀并

酒造有之村々相改候

村役人出迎案内

いたし可申候 以上

(E二一六⑧)村々諸事取り締まりの事

差上申一札之事

今般村々為御取締

被成御越左之通被仰渡候

一前々被仰出候御触趣ハ勿

論五人組帳前書御條目

之趣堅相守万端正路

潔白を元として農業之間

其所相応之生業相稼

困窮不致様心掛可申

聊も奢之心生し候時は

たとえ如斯様相稼とも

自然と困窮落入然ル

時は懈怠之心を生し

弥貧苦ニ迫候故御制法

をも乍弁賭之勝負ニ

携又は道ならざる

事と乍心得良民を

欺金錢掠取或は無詮方

俚皆惡事等いたし

遂ニは被所嚴科ニ候も

有之歎敷次第畢竟

奢之心生し候より分起

候而専ら相慎家業

不怠相稼貧窮不致様

心掛可申事

一 百姓ニ不似合風俗等いたし
追奥長く異見

差加候而も心体正相改もの
有之ハ、急度可申付候条
早々可申立事

一 博奕賭之諸勝負は

甚以御制禁処色々名目
を替□し候趣□相聞

不埒之事候已来右体之

儀於有之ハ急度可申付間

及見聞候ハ、村内之もの

は勿論他村他領之もの

加り居候とも村内ニ而之儀ニ

候ハ、無容赦踏込他之

ものをも一同差押置

可訴出事

一 近村々ニ而博奕有之村内

取締方不行届儀も有之

其段可申出事

一 村内申合火之番

極置昼夜無油断

為見廻火附又は盜賊

いたし候ものは勿論

都而怪敷風俗之もの

見当り候ハ、差押早々

可訴出事

一 喧嘩口論等いたし村方

と□□もの有之候てハ

差押可訴出事

右之趣小前末々迄不洩

様申聞村役人共時々

見廻不取締之儀無之様

可仕と急度被仰附

一同承知奉畏候仍而御

請証文差上申所如件

天保五年正月

所左衛門

所右衛門

文之条

傳左衛門

縫右衛門

政右衛門

(E二一六―⑨)田地質入れの事

(略)

(E二一六―⑩)凶作につき御救いの相談

急廻状得御意候愈各様

御安康御勤役可為入奉觀□候

然ハ畑米之義去巳年中御一同

ニ而御引方願仕候処去冬方追々

私共并村々江御利解被仰聞

御引方之義は容易ニ難被仰付

尤御伺ニ相成候得共御引方

御沙汰不被及候節ハ未方辰迄

拾ケ年平均御相場二式斗五升安

願御伺被成下候様再応御利解

有之難然と右ニ付私共方過

村々ハ拾ケ年平均式斗五安願

いたし度趣ニ付小縣一同願書

差上申候尤御村々御相談不申上候

得共御役所ニ而も外春日村五郎兵衛

新田其方共方御相談可申上旨ニ而

願書は差上申候間左様承引

可被下候勿論御引方二三三分位方

拾ケ年ならし式斗五升安之方

却而宜敷引方同様ニ可相成候

且願□しニ相成候而は□念ニ相成

可申候間乍失礼惣代之積願書

差上申候未方辰迄拾ケ年皆済

目録天明三卯年拾壺ケ年二ケ

村計差出候様被仰付春日村

五郎兵衛新田此節御用序御座候

ハ、御役所御伺御調印可被下候

右願書写相添以廻状得貴意

申候乍御面倒早々御順達

留り村方追而中之条郡中代方

迄御返し可被下候已上

午二月三日

高野町村

名主

庄左衛門

五郎兵衛新田 牧布施 入布施 沓沢新田

前山々新田 桜井新田 春日 春日新町

小平 同新田 三井村方

右村々

御名主衆中

追而順村宜奉願上候御吟味ニ付

両度米壺斗御蔵積を以御伺

被下候御義ニ御座候此段申上候以上

(E二一六―⑪)穀代値段のこと

書状

尚々御組合御村々江御口成可被下候

愈御安静御勤役可被遊御座

奉寿候然ハ畑方米拾年平

均相場ニ式斗五升安願之義再応

御利解有之右畑方御引方願

相叶不申候ハ、拾ケ年ならし

式斗五升安御相談之上取計可申

候所差急差出候様被仰付御村方

□村□両村江は御役所ニ而も

御利害被仰聞候趣ニ付私惣代

ニ而願書差上申候余り取計ケ

間敷義ニは候得共私老人居合候

間無抛惣代ニ而差上申候間此段

□□ニ不相叶候共御高免可被下候

委細之義御尊顔之節

可申上□□込故早々頓首

高野町村

名主

庄左衛門

二月三日

御名主所左衛門様

(E二一六―⑫)凶作につき安石代願の事

乍恐以書御慈悲奉願上候

当御支配所信州佐久郡村々之義

近年引続違作別而去ル已年

不熟凶作ニ付田畑共平年拾分

壺ならてハ無取実小前末々

必至と困窮致難渋詰□

御年貢定式石代御相場之儀

古今未曾有之高直段ニ而

小前取立方差支御上納続

方手段無御座御慈悲之義

左ニ御□申上候

文政六未方

天保三辰年迄 石代直段拾年平均

金壺両ニ付

米壺石九升九合 但 平均直段

米式斗五升安

金壺両ニ付

一米壺石三斗四升九合 外式拾式ケ村

此度式斗五升安

右村々之儀高山之麓極山中
谷間辺鄙之村方ニ而日当薄
霧深地味悪敷近年打続
違作故村々困窮ニ罷在候處
別而去巳年之儀は春中より
雨天曇勝ニ而土用中猶又
冷氣強引続早霜帰霜□
相成諸作無甲斐実々銘々
当日之夫食ニ差支可助合手段
無之小前末々ニ至候而は葛蕨
之根其外品々草根等掘取
夫食之足合ニ仕其日を営
候次第ニ而極難之もの共は
父母妻子を捨他稼等ニ
罷出候者共追々相増其外
飢人多分有之□故ニも
抱り難捨置愈夫食拝借
相願候得共國中不熟故
米価は殊之外引上実々末々
雜穀も無之艱難弥増然所
去巳年石代御相場之義は
前代未聞之高直段天明三
卯年浅間焼大飢饉之

節々格別高直段之石代
御相場故御年貢上納方
必至と差支難儀仕候間
何卒厚御仁恵を以前書
数ヶ年平均直段ニ式斗五升安ニ
被仰付被下置候ハ、御百姓
一同相続仕広大之御慈悲と
難有奉存候間願之通被
仰付被下置候様村役人挙而
連印を以奉願上候以上
当御支配所
佐久郡廿三ヶ村
惣代
天保五年正月 高野町村
名主 庄左衛門
同 彦右衛門
臼田村
百姓代 七郎兵衛
小縣群拾式ヶ村
惣代
和田村 庄左衛門
和子村
名主 七之助

蓑笠之助様
中之条
御役所
(E二一六―13)凶作につき安石代願の事
来ル十六日橋一件会合
塩名田宿之有由廻状返り
八わた江送り
二月六日
(E二一六―14)人馬差出しの事
一 加宿人足馬共ニ
以明ヶ六ツ前 八幡問屋
午二月十二日夕
五郎兵衛新田下桜井迄
両七俣代惣次事松太郎
御馬寄半右衛門送り遣ス
二月十六日 茂兵衛渡ス
(E二一六―15)千曲川往還橋請負い組合一件
二月十六日会合
一式朱三百八十九文

是ハ橋請負年切ルニ付
囲木并小屋代払金受取り

出役左右衛門

(E二一六-16) 入合林野火番の事

跡八ヶ年請定メ

以廻状得貴意申候弥

各様御安康ニ御勤役被

遊御座卜珍重之御義御

義ニ奉申候然ハ入会

刈敷秣山野火番例

年之通り厳重被

仰付候間愈明廿日

始メ一日式人宛御村々

左日割仕候尤雨天は休

一 二月廿日方廿三日迄

矢島村

一 二月廿四日方廿七日迄

五郎兵衛新田

一 二月廿八日方三月朔日迄

御馬寄村

一 三月二日方五日迄

塩名田宿

一 三月六日方九日迄

落合村

一 三月十日方十三日迄

岩尾村

一 三月十四日方十七日迄

中井村

一 三月十八日方廿一日迄

桜井村

午二月廿九日

片倉村

入布施村

名主

右之通り御村々野火番

被 仰付可被遣候此廻状

早々順達桜井村方

右村江御送り可被下候以上

右村々

御名主衆中様

(E二一六-17) 妙香院後住願の事

(略)

(E二一六-18) 飛州病人宿継ぎの事

(略)

(E二一六-19) 郡中金上納の事

(E二一六-20) 平三郎離縁の事

(略)

(E二一六-21) 大麦の覚

(略)

(E二一六-22) 質物心得違いの一件

(略)

(E二一六-23) 榛名講代参の事

(略)

(E二一六-24) 田方植付届書の事

乍恐以書付御届奉申上候

佐久郡

五郎兵衛新田

入布施村

沓沢新田

前山々新田

桜井新田

麦三十壹石八斗

右村々

役人

私共村々当田方植付も

当月二日方相始メ廿五日迄二

相田場不残仕付相済申候

依之御届奉申上候以上

右五ヶ村

天保五午年五月 惣代

五郎兵衛新田

名主 所左衛門

与頭 李右衛門

百姓代政吉

蓑笠之助様

御役所

(E二一六―25) 定免切替安石の事

安代御願御下知金壹両ニ付

石九升九合之由高野町方も

知□□有之候廻文来り

六月一日

覚

未方亥迄五ヶ年間

一粍三十九石八斗一升六合 五郎兵衛新田

(E二一六―26) 凶作につき付貯穀貸渡の事

去已違作ニ付村々貯穀内

貸渡候分小前帳

取調御用序早々

可差出候其節三役人

印形持参可罷出者也

中之条

午六月廿五日 御役所

右御廻状牧布施方受取り

高柳江返り

(E二一六―27) 凶作につき御年貢割返之事

其村々去已年御年貢

返納之分割返候条来ル十四日

小手形并三役人印形持参

可罷出候此廻状刻付を以

早々順達留り村方可相返者也

中之条

午六月十一日 御役所

三ツ井 小平 春日村 春日新町

沓沢新田 牧布施 五郎兵衛新 田桜井新田

(E二一六―28) 御年貢米相場之事

弥御安情奉賀寿候去已

年御年貢米平均御相場

弥下知相済候ニ付其向々

御□方内談申度当月十五日

拙宅御立会可被下候様仕度

右得貴意候

郡中代

六月一日 源蔵

右廻状三ツ井村始メ

桜井留メ

(E二一六―29) 凶作に酒造高三分の一減之事

六月五日

近年違作之国柄多く

米穀払底ニ付諸国

酒造之義去已年は造米

米高之三分一相減三分二

酒造可致旨相触候処今以

米価高直ニ而下々及難義

相聞候間追而及沙汰
迄造来米高之三分二
減三分一酒造可致候
右之通可相触候

(E二一六-30) 不法者取締の事

(略)

(E二一六-31) 凶作につき御拝借金差引の事

別紙之通御書付出候間

得其意村下令受印

早々順達留り村可相返者也

中之条

午六月三日 御役所

三ツ井始五郎兵衛新田留り

六月廿日受取り先村送り

御拝借時覚差引

一 四両壹分三百九十四文

此分□□夫錢割込差引入

一 四両貳分式朱壹ノ三百十七文

□夫銀
米□代

ノ九両貳朱三十八文

内 九両 御下拝借

引 貳朱三十八文不足

外貳分三百六十七文

弥四郎遣ス

右之分手前取替置申候

七月二日立会改

(E二一六-32) 不法者の取締まりの事

(略)

(E二一六-33) 穀類他領持ち出し禁止の事

去巳年陸奥出羽国其外

違作之国柄等有之江戸

表は勿論諸国在々

之通米価高直相成末々

之もの共難儀および候趣

相聞処銘々領主知行

限他国之売買差留候

得共有之身元相□之もの

米穀有之而は売捌

方相成兼自身融通

不宜候間御領私領は

無差別米穀融通

無差支様急度相心得

米売買可致候

七月十三日 御役所

三ツ井始メ五ヶ村留メ

(E二一六-34) 御普請請願書差出しの事

(略)

(E二一六-35) 荒地起返御手当金貸付金の事

此度御取締御用兼

荒地起返り并取下場

免上為吟味石井啓兵衛

差遣条得其意小前帳

取調差出場所一筆限

致建札逸々案内都而

差支無之様取計此廻状

刻付を以早々順達留り村方

啓兵衛御用先江可相届者也

中之条

蓑笠之助

八月朔日御役所

三ツ井村始五ヶ村新田迄

(E二一六―36) 中之条御陣屋村々廻村の事

覚

一人足三人 内 貳人は駕籠壹挺

壹人は両掛壹荷

右は我等儀御取締就

御用來ル六日曉七ツ時

中之条陣屋出立村々

致廻村条得其意書面

人馬差出支配所之外は

御定之賃錢請取之諸事

無差支様取計此先触

早々順達留村方我等

御用先江可被差出候以上

御取締

蓑笠之助手附

午八月三日 御普請役格

石井啓兵衛

中之条方上田町河野嶋河原

ノ城望月宿三ツ井村方

五ヶ村新田迄

八月六日 春日村泊

同七日 取手町泊

同八日 下畑村泊

右御廻状式通三日申下刻

奉拝見早刻拔井新田継送

(E二一六―37) 博打勝負事取締之事

差上申一之事

博奕賭之諸勝

負之義ハ前以御制

禁之處今以不相止

博奕又ハ紛敷賭

之勝負いたし候もの

共有之趣被及御聞

此度為御取締御廻村

夫々御糺之上御召捕

可被成處左候而は村役人

共私役之心掛薄口

恐入候間得と取調

村内風聞不宜者共江

は異見差加候ハ、

自然と風俗立直シ

其身慎方ハ勿論銘々

農業出精家業

思召方專可□□□

(E二一六―38) 悪党共取締の事

可申は御愁訴奉願候

ニ付格別之御勘弁以

此度御免被成下然ル

上ハ村役人無油断時々

見廻り風聞不宜者ハ

勿論其外怪敷者

有之ハ無宿有宿之

無差別御取締ニも

抱候間不見分差押

早々御訴可申上と今

般御嚴重ニ被仰渡

逸々承知仕奉畏候

仍而御証文差上

申處如件

(E二一六―39) 松平石見守様御用人馬触の事

此廻状乍御世話早々御順達

可被下候留り相浜村方御序

之節当宿へ御返し可被下候

以廻状□御意志残暑

強ク御座候得共各様愈御安康

之御義奉存候然ハ

大坂御加番御用

松平石見守様御帰府

ニ付田野口御陣屋江御立

寄ニ付当宿方弥陀□

通り人馬御継立被仰付

依之各様御村々御地内

当月十三日御通行被為遊

候間此段為御知御通達

申上候間万事急御取計

可被下候右段御□度候□斯

御座候以上

望月宿

問屋 久左衛門

午八月

八幡宿

矢嶋村

五郎兵衛新田

相浜村

右村々

御名主中様

追記申上候十一日早朝御長

持御持参ニ而御宿割御

役人中御通行在之間

御村々御地内橋ニ御出付

被下候様奉願上 以上

(E二一六―㉔) 松平石見守様通行の事

乍恐以書付御届奉申上候

一 此度大坂御加番 松平石見守様

御帰府ニ付田野口御陣屋江

御立寄ニ付当村地内

当月廿三日御通行被為遊

候依之此段御届申上候以上

佐久郡

五郎兵衛新田

天保五年八月 三役人

蓑笠之助様

御役所

右之通御届書差上候

(E二一六―㉕) 上郷宅内用水間数の覚

(略)

(E二一六―㉖) 村々役人出頭の事

其方共申渡儀

有之条当月中之内

可罷出候此廻状早々

順達留り村方可

罷返もの也

中之条

午八月三日 御役所

佐久郡

春日村

六太夫

卯右衛門

五郎兵衛新田

所左衛門

本新町村

彦左衛門

彦右衛門

取手町村

忠右衛門

吉右衛門

清次郎

野沢村

彦右衛門

庄七

三兵衛

下畑村

新左衛門

森三郎

八郡村

吉兵衛

文右衛門

(E二一六―43) 凶作困窮者救済の褒美状

信州佐久郡五郎兵衛新田

名主 所左衛門

其方儀去巳年違作ニ付困窮之もの共

夫食差支候節壳渡之秋米困置候段奇特

之儀ニ付誉置候様於御勘定所奉行衆被仰

渡候条可得其意候もの也

天保五年八月 蓑笠之助

(E二一六―44) 御年貢金上納の事

已御年貢内高勘定

一 元米壹石ニ付八斗貳升壹合掛ケ

出来米壹斗七升九合可掛也

口米同断

平均直段

壹石九升五合四勺七才

米壹石ニ付

永九百十三文掛ケ口

一 金貳分貳朱

桜井新田

一 同四十八両

五郎兵衛新田

一 同十四両

牧布施

一 同廿三両

入布施

一 同六兩貳分

沓沢新田

一 同四両

前山々新田

一 同十両

春日新町

一 同七十両

春日村

一 同廿両

小平村

一 同十五両

三ツ井村

其村々当午初納御年貢

書面之通令割賦候条得其意

来月十四日迄無相違致

上納候廻状村下令受印從

留村可相返也

午 中之条

九月十三日 御役所

右村役人

(E二一六―45) 検見坪刈り内見の覚えの事

内坪覚

上々毛

字大向四十六株

内見壹升八号

一 壹升八合貳勺

所左衛門

上毛

字才蓮寺七拾五株

所右衛門田

内見壹升四合

作人

一 壹升五合

磯七

中毛

字仲田六拾五株

弥四郎田

内見壹升貳合五勺

作人

一 壹升壹合三勺

伊左衛門

下宅

字原崎七拾六株

文之丞田

内見壺升壺合

作人

一 壺升壺合七勺

半三郎

平均壺升壺合六勺六才

土用二日め

例年方は四日雨天故延引

九月十八日

(E二一六⁴⁶) 中之条御陣屋村々廻村の事

以廻状得貴意候然ハ

御代官様明後六日

御影御出立中之条着

先例之通御通行先江

御出迎可被成候且八日

御目見之儀被仰付候間

七日着御届ケ被成候

此段御名前御調有之

二付当日御届二而ハ間二合

兼候間此段無間違御

届ケ可被成候以上

郡中代

十月四日 源蔵

巳之刻

三ツ井方桜井新田迄

右村々名主

(E二一六⁴⁷) 二納御年貢上納の事

二納御触

一 金百十七両

五郎部新田

一 同四両壺分

永百十三文五分

御国役

一 永三十一文壺分

桜井新田

御国役

ノ

右其村々当午御年貢

二納金并同年可相納

国役金共来月十四日

限り上納可致村下令

受印早々順達留り村

可相返者也

中之条

午十月十三日 御役所

右村

役人

(E二一六⁴⁸) 郡中代会合の事

(略)

(E二一六⁴⁹) 草薙明神勧化の事

(略)

(E二一六⁵⁰) 千曲川往還橋請負賃金の事

覚

橋勤高百石二付

銀十六匁当り

一 金貳分永廿五文三分

五郎兵衛新田

一 同壺分貳朱八十八文

入布施

一 同貳朱百廿文

牧布施

一 永百十四文七分

沓沢新田

一 同九十一文七分

前山々新田

一 金貳朱五十一文五分

春日新町

一 同壺兩貳朱永五十三文八分

春日村

一 同貳朱八十六文七分

小平村

ノ

右は当午千曲川往還橋
請負賃銀書面之通り
御座候間例年之通り来ル
十四日中之条瀬左衛門殿方ニ而
取立仕候間御村々

無御失念御持参御渡シ
可被下候已上

五郎兵衛新田
所左衛門

十一月五日

右村々

御名主中

(E二一六^{⑤①}) 千曲川往還橋請負賃金の事

覚

橋勤高百石二付

銀拾六匁当

- 一 金壹分永五拾三文 本新町
- 一 同壹分永五拾九文五分 取出村
- 一 同壹分永百拾貳文三分 高柳村
- 一 同壹両永八拾壹文八分 臼田村

右は千曲川往還橋請負
賃銀書面之通ニ御座候間
来十四日中之条瀬左衛門殿方ニ而

取集仕候間無失念御持参
御渡可被下候以上

五郎兵衛新田
十一月八日 所左衛門

右御村々
御名主衆中

(E二一六^{⑤②}) 中之条御陣屋村々廻村の事

覚

一人足三人

内式人 駕籠壹挺

老人 両掛壹荷

右は当国村々御取締

就御用其筋罷越条

書面之人足差出支配所
外は御定之賃錢請取
無遅滞繼立休泊之儀は
別紙泊附之通相心得

御料私領共木錢木代
相払条一汁一菜を以

取賄都而無差支取計
此先触早々順達留より
我等江可相返候已上

蓑笠之助手附
御普請役格

午十一月三日 石井啓兵衛

中之条 上田 海野 田中

小諸 御影 四日泊り岩村田 高柳

五日泊り 六日泊り

高野町 下畑 上畑 馬越

六日昼

八郡 下畑出立 高野町

七日泊り

中小田切 臼田出立 取出町村

八日泊り

本新町村 五郎兵衛新田 桜井新田
牧布施 入布施 沓沢新田 山新田
九日昼
春日村 小平村 三ツ井村

(E二一六)53 村役人出頭の事

御年貢納方之儀ニ付

如何敷風聞有之

以之外之事ニ候判頭

之もの唯今召つれ

可罷出候以上

午十一月八日 石井啓兵衛

(E二一六)54 御尋者の事

(略)

(E二一六)55 御年貢納方で呼び出しの事

(略)

(E二一六)56 吟味筋につき出頭の事

五郎兵衛新田

猶兵衛

次郎

与三良

留次郎

右之もの共吟味筋

有之間組合村役人

差添明後十三日罷出

着可相届ケ此書付

其節可返もの也

中之条

午十一月十一日 御役所

右村

役人

(E二一六)57 午年米穀値段覚

午御直段

金壺両ニ付

一米九斗七升五合

本途

同八斗九升九合八勺 御口米

(E二一六)58 人馬差出し急触れの事

以廻状申上候然は此度

御緒家様方御通行被

遊候ニ付加宿人馬今

夜正九ツ時急度相詰

候様御申付可被遣候

尤此触早々御順達

可被成候以上

五郎兵衛新田

下縣村

下桜井

午

十一月十六日 八幡

問屋

年寄

右村々

御名主中

(E二一六)59 午年年貢大積りの事

午御年貢大積り

一米貳百六十壺石九斗六升八合

代貳百六十八ノ六百八十五文

但九斗七升五合

一米五斗一升五合 小物成

代五百廿八文壺分 但□□

一米七石八斗七升四合 口米

代八ノ七百五十文八分 但八斗九升九合八勺

一米四斗貳升四合 御伝馬宿入用

代四百三十四文九分

一米壺升七合 六尺給米

代十七文四分

米代ノ 貳百七十八ノ四百十六文三分

一 永廿壹文壹分 御蔵米入用
一 同十五文三分 口米
一 同十五文 質屋冥加永
一 同廿四文 同断二枚
一 同三百七十五文 鉄砲五挺
一 同九十六文壹分 林年貢
小以五百四十六文五分

代 貳百七十八 貳百六十貳文八分

内 四十八両 初納

百十七両 二納

引

百十三 貳百六十貳文八分

外

貳百七十文 包俵品割入

外 百十四 貳百三十貳文八分

永貳 貳百三十八文五分

是ハ拝借米貳石貳斗八升代

但□□十一石四斗 五ヶ年賦

平均直段

米合貳百七十石三斗五升七合

代永合貳百七十七 貳百六十四文

金壹両二付

九斗七升貳合六勺三才

米壹石二付

永壹 貳百八十八文貳分掛ケ

内高

永壹 貳百八十八文貳分

丁八百文 惣掛

三十五文 国役

貳百八十三十五文

壹反二付

四人五分

老人二付

丁百七十四文掛ケ

一反三畝十四分九りん

(E二一六) 60 加宿人足急触の事

十一月廿日出

一馬 入 佐平次

一同 平次郎

急触

(E二一六) 61 千曲川往還橋組合の事

以廻状得御意候寒氣之砌

先各様御堅勝ニ御勤役

可被成御坐珍重奉賀候然ハ

橋方惣調勘定来ル廿六日

仕候間午御苦勞塩名田宿

彦兵衛宅江御出席可被下候

此廻状午御世話早々御順達

可被下候右之段申上度如此ニ

御坐候早々以上

塩名田宿

名主 彦兵衛

午十一月廿一日 御馬寄村

名主 市左衛門

五郎兵衛新田

片倉村

春日村

春日新町

(E二一六) 62 千曲川往還橋組合の事

廻章ヲ以得御意候向寒

之節御壮栄ニ而御勤役
奉珍重賀候然ハ組合会合
当年ハ於拙宅来ル廿五日
仕度奉存候間乍御苦勞
早朝御出会被下候様奉
待上候右御使申上度如
斯御座候以上

沓沢新田

十一月廿一日 名主

弥右衛門

入布施村 五郎兵衛新田

桜井新田

右村々

御名主衆中様

(E二一六)63 当年御年貢皆済金の事

一 金百拾六兩貳分 五郎兵衛新田

永三拾六文八分

一同貳両 桜井新田

永拾七文六分

右ハ其村々当年御年貢

皆済金書面之通ニ候条
得其意十二月八日限り
無相違上納皆済可致候
村下令請印刻付を以
早々順達從留村可
相返候以上
十一月十四日

(E二一六)64 郡中割の事

(略)

(E二一六)65 加宿人足急触之事

十一月十五日急触

一人 寅之助

一同 入 七五郎

一馬 伊兵衛

一同 平作

ノ

(E二一六)66 人馬差出しの事

十一月廿五日夕廿六日□□

一馬 利右衛門

一同 入 治左衛門

一人足 宇右衛門
一同 十太郎

ノ

(E二一六)67 古金銀引替の事

真字二分判通用之義

当九月を限候様と去ル巳年十月

相触候所今以引替残有之趣候

遠国等未行届候ニ付真字

貳分判引替之義来ル未ノ

九月ヲ限不殘引替可申候

尤遠国之分ハ去ル卯年十月

相触候通引替金高遠近ニ

応し道中入用も被下候事ニ

候得ハ御科ハ御代官私領ハ

領主地頭ニ而厚世話いたし

最寄引替所江為差出不殘

引替候様可申付候来未十月

真字貳分判通用弥停止

たるへく候間無油断引替ニ

差出可申候尤停止以後

通用いたし候もの於有之ハ

急度可申付候

午十月

古金銀式朱銀毫朱金等

引替所之義当午十月迄

被差置候段去巳年相触候所

今以引替残有之候間引替

所之義猶又来未十月迄ハ

是迄之通被差置候且又

西国中国杯は別而引替残

有之趣先達而相触候得共

兎角引替方揃取兼候二付

御料は御代官私領は領主地頭方

弥遂穿鑿少分之高ニ而も

早々最寄引替所江差出来ル

未十月迄ニ不残為引替

候様可致候此上ニ而も貯置

不引替もの於有之は

吟味之上急度可申付候

午十月

別紙之通御書付出候間

得其意小前末々迄

不洩様申聞村下令請印

早々順達留り方可相返者也

中之条

午十一月廿日 御役所

三ツ井村始入留

十一月廿七日牧布施村方請取

□□□□□□

(E二一六⁶⁸) 両町入用の事

(略)

(E二一六⁶⁹) 加宿人足急触の事

十一月廿八日

一人足 中 源蔵

一同 入 藤四郎

急触

(E二一六⁷⁰) 酒造株等取調の事

此度北国筋之内酒造

株拝借之儀再応相

願候向も有之候二付

御貸渡之儀被仰出

候間御料私領寺社

領之無差別勝手造

御差止以後家業ニ

離れ致難儀候者

有之候ハ、取調可申

聞候且株金として

酒造米高百石ニ付

金拾両初年相調置

冥加之義は高百石ニ付

金三分ツ、来未年以來

稼中年々相調前書

株金之儀は稼相止

候節御下ケニ相成候間

右之趣相心得村々江

相触願出候もの有之候ハ、

石数等委相調可被申聞候

午十月

別紙之通御書付出候間

得其意小前末々迄

不洩様申聞村下

令受印早々順達

留り村方可相返者也

中之条

御役所

午十一月廿四日

佐久郡

三ツ井村方相始メ

五郎兵衛新田留メ

(E二一六〇⁷¹) 山役金の事

(略)

(E二一六〇⁷²) 畑成田の事

(略)

(E二一六〇⁷³) 飢人に夫食代金拝借の事

急御拝借忝件

一金九両 午方戌年

五ケ年賦拝借

此訳

一 五両壹分式朱十式文

貯穀貸渡

不足之分買上

麦粃代払

一 壹両三分錢三百三十五文

当年返納

ズ七両式朱三百四十七文

引 壹両三分四百四十五文

此分ニ而米貯返納取立

余荷不足入筈

十二月十一日改置申候

(E二一六〇⁷⁴) 加宿人足急触れの事

明十二日正明ケ六ツ寄

一 加宿人馬触来り

十二月十二日出

一人足 惣太郎

一同 万作

一 午入 九左衛門

一同 幸助

ズ

(E二一六〇⁷⁵) 行方知れず人の事

(略)

(E二一六〇⁷⁶) 行方相知れずの事

(略)

(E二一六〇⁷⁷) 郡中代より牢番の事

当十七日方牢番

当郡江当り候段

郡中代申来り候

十二月十三日

(E二一六〇⁷⁸) 榛名山代参の事

(略)

(E二一六〇⁷⁹) 加宿人足急触之事

加宿方十五日出

一人足 嘉四郎

一同 安右衛門

一 馬入 五助

一同 半右衛門

ズ

十二月十六日出

一人足 丈左衛門

一同 万右衛門

一 馬入 宗兵衛

一同 久右衛門

ズ

(E二一六)⑧ 酒造高三分の一減の事

諸白酒造之義三分二減

石可致旨当五月中

相触候処当年は諸白

豊年□之趣相聞

候間追而沙汰見迄

三分二酒造可致候以上

右之通御書付

出候間小前末々迄不

洩様申聞へく候以上

中之条

御役所

午十二月十四日

三ツ井始五ヶ村迄

十二月廿一日受取り

桜井新田送り

(E二一六)⑧ 初米一件の事

一 三百廿五文 五郎兵衛新田

是ハ初米一件出役料

割合せ□□□江遣ス

(E二一六)⑨ 養子縁組送状
(略)